



慶應義塾大学ビジネス・スクール

プロスペクト・インベストメント・ ジャパン株式会社

1997年より日本では金融ビッグバンが始まった。外為法の改正、銀行におけるペイオフ 10
解禁、確定拠出型年金の導入などがプランとして打ち出され、1400兆円にも上る日本の個人
金融資産の動向には世界中の金融機関が注目していた。米国のプロスペクト生命もその
一つであった。

プロスペクト生命保険

15

プロスペクト生命は、米国コネチカット州ハートフォードに本社を持つ、1860年設立の
中堅生命保険会社である¹。米国東部から中西部を地盤とし、一般個人向け生命保険を主力
商品としている。

この10年ほどプロスペクト生命は個人富裕層向け資産運用業務に注力してきた。米国の
個人富裕層は財産の運用を多様化させており、特に株式投資信託などにより、リスクをと 20
りつつ、より大きな運用収益を狙うスタイルが一般化している。また、満期で受け取った
生命保険金を引き続き運用する場合にも投資信託などへと資金を振り向けることが多くな
っている。プロスペクト生命はこうした流れを捉え、自社生命保険商品にかわるべきもの
として、資産運用子会社プロスペクト・インベストメント・アドバイザーズ (PIA) を運
営し²、同社を通じて株式投資信託をはじめとする運用商品³を提供している。 25

プロスペクト・インベストメント・ジャパン (PIJ)

プロスペクト生命では開業以来初の海外展開として、日本進出計画を2000年初より進め
ていた。日本では金融ビッグバンを機会に投資信託などのウェイトが大きく高まり、米国
のような運用アドバイスサービスがすぐにでも必要になると見こんだからであった。米国 30

1 総資産200億ドル（約2兆5000億円、1999年12月期）。

2 受託総資産520億ドル（約6兆5000億円、1999年12月期）。

3 PIAの運用商品については巻末資料1参照。